

軽種馬草地管理の改善 ～良質粗飼料安定確保～

(課題番号 5、11)

◆活動年次：令和3年度

◆対象：草地管理改善志向農業者（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）

1 課題の背景

- 軽種馬生産は日高管内の基幹産業で、産出額は約250億円で全体の55%を占める（図1）
- 牧場数は年々減少しているが、繁殖牝馬飼養頭数および生産頭数は増加（図2）
- 市場における販売価格が好調なこともあり、1戸当たり飼養頭数は増加（図3）

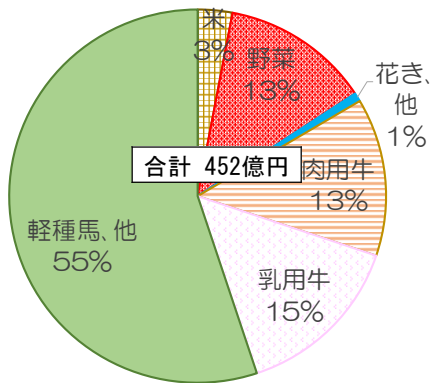


図1 平成30年日高の農業産出額 (ひだかの農業2020)

図2 飼養戸数および頭数の推移

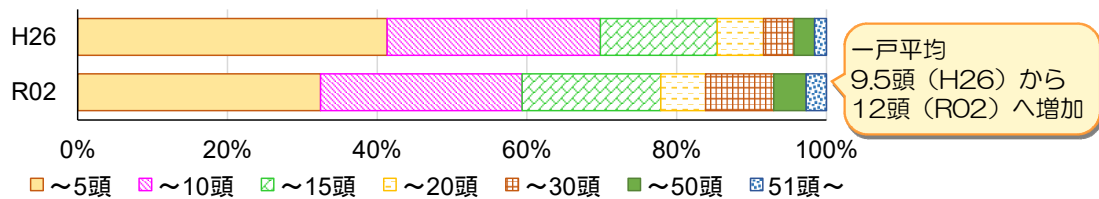


図3 日高管内の飼養規模別牧場数割合の変化

- 軽種馬草地の現状
 - ・ 飼養頭数の増加や昼夜放牧の導入により **放牧地面積が不足**
 - ・ 裸地の増加や強害雑草侵入により **植生の悪化・草量の低下**
 - ・ 天候に左右されやすい乾草調製主体が多い



**良質粗飼料安定確保に向け、
放牧地および採草地管理の見直しが必要**

2 活動の経過

- 放牧地および採草地の現状確認
- 土壌分析結果に基づく施肥設計とその後の追跡（継続中）
(分析→施肥設計→施肥→草地確認→分析→結果確認→施肥設計→・・・)
- 更新に関する支援（更新方法、ギシギシ対策）
- 追播（は種量、時期）に関する支援と情報提供
- 放牧地および採草地の雑草対策支援
- 排水対策の情報提供

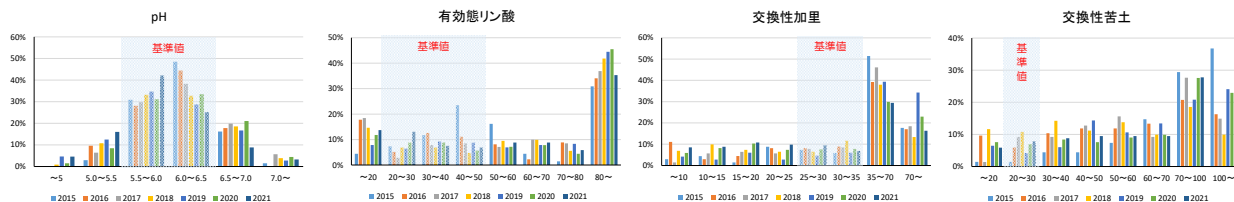


3 活動の成果

<新たに見えた課題>

- 土壌養分の蓄積、アンバランス
- 除草剤を使わない雑草対策
- 草地・草勢に応じた追肥のタイミング
- プラウ耕起が困難な草地に適した植生改善
- 草地・土壌に応じた透排水性改善
- 追播の必要性への理解
- 糞尿の適切な堆肥化と利用

<日高管内土壌分析結果の推移>



- 土壌pHは約70%が適正範囲内
- リン酸、加里、苦土は基準値以上が多い

<実践事例>

○ 追播

大きく裸地となった箇所へ春に追播。土壌水分のある時期の追播だったため出芽は良好だったが、夏季間の降水量不足で定着せず、12月に試験的にフロストシーディングを実施。

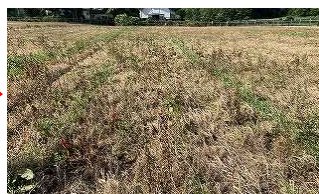
土壌や草地の状況によって、追播時期やは種量、追播方法など再考が必要だが、追播の必要性は理解された。

○ 簡易更新

放牧地の1/3程度ギシギシが占有したためロータリー耕による簡易更新を選択。8月末までは種に向け支援したところ、は種は8月中に完了。しかし、実生のギシギシからの発芽が多く見られたため、雑草対策を支援する。



放牧地に広がったギシギシ (6月)



除草剤処理12日後 (7/14)



は種23日後 (9/14)

<他の実践項目 草地の状況に応じて農業者が選択>

- 分析結果に基づいた肥料の選定・施用
- 土壌pH維持のため炭カル施用
- 植生改善に向けた施肥の検討



<草地管理改善技術実践農家戸数>

地域第一係 1戸→1戸

地域第二係 2戸→2戸

合計 3戸→3戸

4 今後の対応

- 施肥設計草地の生育および土壌分析値の追跡確認
- 簡易更新・追播等を活用した草地の植生改善支援
- 雑草対策
- 透排水性改善対策 (情報提供、事例紹介)
- 糞尿の堆肥化と有効活用

